

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

大津市防災キャンプ推進事業 ～避難所での宿泊を体験しよう～

大津市

【事業のポイント】

当事業は、通常の避難所体験(地域の一員としての青少年の防災教育、地域の絆づくり)に加え、「青少年指導者の養成や青少年の健全育成を図ること」を目的としていることが特徴である。

- ①事業の企画に青少年指導者に携わってもらうこと
- ②参加者(主に子ども)が体験するものであること
- ③グループ単位での活動を主にすること
- ④青少年指導者にとっても防災についての知識、技術の習得の場となること
- ⑤「自分の事は自分です」という意識の醸成を図るものであること



協力して取り組んだ避難所体験

1. 企画

(1) 事業実施の背景

「大津市防災キャンプ推進事業」を計画・実施した地域は、以前より防災に係る関心が高く、地域の青少年の参加、地域関係機関・団体の参画が期待できることから、より実践に即した体験活動を実施することにより、地域とのつながりをさらに深め、防災に関する地域住民自らの意識の向上と、地域の連携体制の強化を図るため、実施した。

(2) ねらい

「大津市防災キャンプ推進事業」については、地域の青少年及び青少年指導者の養成並びに健全育成を目指し、概ね中学校区を単位として防災キャンプを実施することで、防災に関する正しい知識を楽しく習得し、被災時には子どもたちも地域の住民の一人として、互いに協力しながら災害対策を担うことができること、さらには、地域とのつながりをさらに深め、防災に関する地域住民自らの意識の向上と、地域の連携体制の強化を図ることをねらいとした。

2. 実施概要

(1) 実施主体

委託者 滋賀県(防災キャンプに係る指導、助言など、当該事業の進捗管理を行う。)
再委託者 大津市(県の指導、助言を受け、事業運営に係る諸業務を行う。)

<実行委員会構成メンバー一覧>

- 瀬田北学区自治連合会 会長
- 瀬田北学区自主防犯・防災会 会長
- 消防団瀬田北分団 分団長
- 瀬田北学区子ども会指導者連合会 会長
- 瀬田北学区地域女性会 会長
- ユースボランティアセミナー企画委員会 委員長
- ユースボランティアセミナー企画委員会 副委員長

※ ●は実行委員会立ち上げメンバー

<企画委員会構成メンバー一覧>

- ユースボランティアセミナー
- 企画委員長(実行委員会議兼務)
- 企画副委員長(実行委員会議兼務)
- ・ 大津市青年協議会
- ・ 大津市立葛川少年自然の家青少年カウンセラー会
- ・ 大津市子ども会育成連合会
- ・ 日本ボーイスカウト滋賀連盟大津地区連絡協議会
- ・ 一般社団法人ガールスカウト滋賀県連盟大津市連絡協議会
- ・ セミナー受講者
- など

(2) 開催実績	
月 日	内 容
4月16日(木)	第1回企画委員会
5月21日(木)	第2回企画委員会
6月18日(木)	第3回企画委員会
7月 7日(火)	第1回実行員会議
7月 9日(木)	第4回企画委員会
7月24日(金)	避難所設営・宿泊体験訓練(市消防局主催)視察(堅田小学校)
7月30日(木)	第5回企画委員会
7月31日(金)	避難所設営・宿泊体験訓練(市消防局主催)視察(富士見公民館)
8月 1日(土)	避難所設営・宿泊体験訓練(市消防局主催)視察(富士見公民館)
8月20日(木)	第6回企画委員会
8月21日(金)	防災キャンプ推進事業チラシ配布
8月24日(月)	第2回実行委員会議
8月30日(日)	大津市ユースボランティアセミナー第1回研修会
9月12日(土)	大津市ユースボランティアセミナー第2回研修会
10月 1日(木)	第7回企画委員会
10月 6日(火)	第3回実行委員会議
10月22日(木)	防災キャンプ推進事業スタッフ説明会
10月24日(土)	平成27年度大津市防災キャンプ推進事業
10月25日(日)	平成27年度大津市防災キャンプ推進事業
11月16日(月)	第4回実行委員会議
11月19日(木)	第8回企画委員会
1月21日(木)	第9回企画委員会



(3) 推進月間の設定

事業実施する10月を推進月間と設定し、チラシの配布をはじめとし、近隣の市施設での広報活動を強化した。また、地域の小学校でも、チラシを配布した後も、さらにPRしていただくよう要請した。

(4) 事例の収集と発信

平成27年7月24日・25日及び7月31日・8月1日に市消防局主催の避難所設営・宿泊体験訓練を当該防災キャンプスタッフと視察した。

また、事業周知については、地域の小学校及び中学校の生徒児童全員にチラシを配布するほか、地元自治会での自治会回覧、市施設でのチラシ設置を行い、周知した。

(5) 意見交換の場の設定

企画委員会を8回、実行委員会議を4回開催し、青少年指導者の意見、また、地域の関係団体の意見を聞き取り、当該事業を実施した。

(6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

今後も、青少年を対象とした地域でできる防災学習プログラムの開発を地域の様々な機関・団体が共に協力して企画運営することで、新たな関係機関との連携を強化し、地域コミュニティの活性化を図り、「地域プラットフォーム」の形成をさらに強化していく。



3. 成果と課題

(1) 事業成果

【アンケート結果】

参加した子ども達や大人の方が、日頃体験できないことを体験できたこと、防災意識が高まったことに満足されたこと、又、たくさんの学びに加え、地域団体、そしてボランティアスタッフと子ども達が深く交流でき、青少年指導者の養成のきっかけにもつながった。

〔参加者の感想〕

- ・救護救命でガラスで血が出た時の対処法がわかった。
- ・ロープの結び方、骨が折れた時の治療法がわかった。
- ・学校では得られない学習ができた。
- ・協調性がないとダンボール間切りを作成する時、無駄なスペースが生まれることを知った。
- ・火の扱い方、プロパン、缶切りなど、普段使うことが少なかったが、年に数回でも体験が必要だと思った。
- ・日頃できない、放水体験、消火器の使い方、救急処置など、こういった機会でないで経験できない内容を体験できたので、よかった。



(2) 事業運営上の課題

①参加者が少なかったこと

事業実施の時期や周知方法について、関係団体への協力を求めるなど工夫が必要である。

②準備、後片付けに多大な労力を必要としたこと

市消防局が開催している事業等と共催することで、事業内容が充実するとともに、少ない労力で効果的な事業が実施できると考えられる。

③炊き出し訓練に時間がかかったこと

グループの担当業務を的確に伝え、効率よく訓練を進めることが必要である。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

1 地域への早めの協力の依頼

地域の協力により厚みのある周知をするには、極力早く開催を知らせることが必要である。

2 事業の周知方法の見直し

より厚みある周知を行うため、地域や学校園に協力を依頼するなど、周知方法の見直しが必要である。

3 消防局との連携強化

プログラムのほとんどを消防局に依頼しているため、少ない労力で効率よく事業実施するためには、共催などの工夫が必要である。

4 大津市ユースボランティアセミナーの功績の周知

当年度の防災キャンプのプログラムはユースボランティアセミナーの企画委員会で企画・運営したものである。この青少年指導者の活動を広く周知することが必要である。

4. 団体プロフィール

【実行委員会議構成団体】

- 瀬田北学区自治連合会
自治会組織の連合体
- 瀬田北学区自主防犯・防災会
防犯・防災に関する連合体
- 消防団瀬田北分団
地元消防団
- 瀬田北学区子ども会指導者連合会
子ども関係団体の連合体
- 瀬田北学区地域女性会
地域女性の連合体
- ユースボランティアセミナー企画委員会(右記写真)
市内青少年関係団体の推薦により集結した青少年指導者団体



子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

なんびっ子防災通学合宿

日野町教育委員会

【事業のポイント】

- 関係機関の参画により、地域の子どもたちが家族や地域の様々な世代の大人と共に災害時の避難方法をはじめ、避難所生活体験や防災・減災の基礎を学ぶ機会とする。
- 子どもたち自身が自ら進んで、防災・減災に必要な自助・共助につながる自主性と行動力を培う。
- 地域のつながりが広がり、団結力が生まれることから地域プラットフォームの拡充を支援し、災害に強いまちづくりを目指す。



消防団による避難所受け入れ(身元、健康確認)

1. 企画

(1) 事業実施の背景

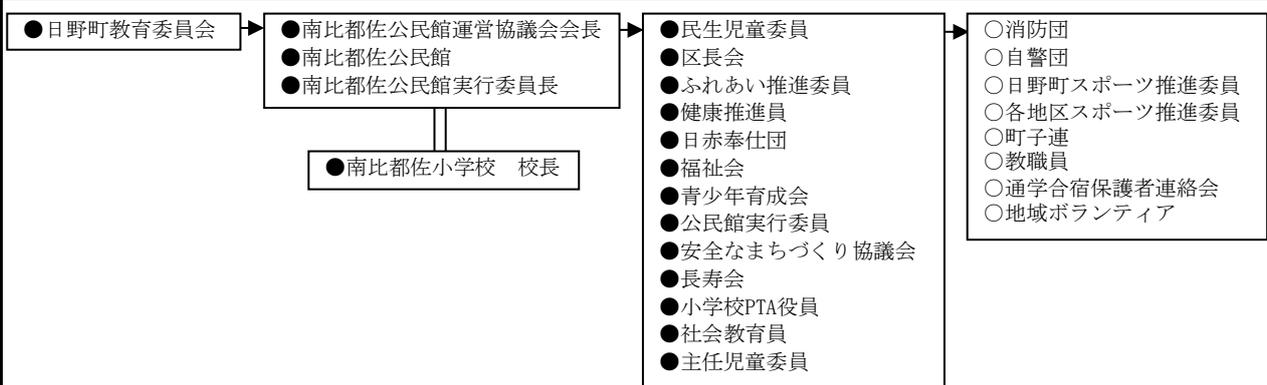
当地域では平成25年度から通学合宿を実施してきているが、近年は至るところで自然災害が発生し、当地域でもいつ災害が発生してもおかしくないことから、防災キャンプの要素を取り入れ、非常時を想定し避難場所に指定されている地域の公民館を会場に、避難所生活を体験する防災通学合宿を実施することとした。

(2) わらい

避難所生活の知識や配慮する点、生活の工夫等を実際に身をもって体験することによって、子どもたち自身が自ら進んで防災・減災に必要な自助・共助につながる自主性と行動力を培うことができる。また、地域の消防団・自警団等に避難所開設・運営等の実地訓練を兼ねて協力していただくことで、お互いにWIN-WINの関係ができ、地域の団結力がより一層高まり、災害に強いまちづくりを推進する。

2. 実施概要

(1) 実施主体



(2) 開催実績

月 日	内 容
5月29日	実行委員会議①
6月 6日	オリエンテーション
6月12日	全スタッフ事前説明会
6月26日	実行委員会議②
7月 2日	通学合宿
7月 3日	防災通学合宿
7月 4日	防災通学合宿
9月16日	実行委員反省会
1月31日	実行委員会議③

(3) 推進月間の設定

防災通学合宿実施日である7月を防災推進期間と設定し、広報紙やチラシを配布することや声かけを行い、地域住民への周知を図った。

(4) 事例の収集と発信

全国で実施されている防災キャンプの情報をインターネットで検索し、情報収集を行ったり、県内の実施例を参考に、リストアップし、実行委員会で協議し内容を決定した。また、実施後には、滋賀県人権教育研究大会や滋賀県防災キャンプフォーラム、日野町地域子育てフォーラムで事例発表を行い取組内容について発表した。

(5) 意見交換の場の設定

オリエンテーションでは保護者の質疑応答、スタッフ事前説明会では、スタッフの質疑応答を行った。実施後には、収集したアンケートを元に実行委員で反省会を行った。



(6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

- ・通学合宿に参加した子どもたちがボランティアリーダーとなり、地域を担う若者になるよう、子どもたちが活躍する機会を設ける。
- ・地域住民と子どもたちが交流する機会を増やす。



3. 成果と課題

(1) 事業成果

- ・防災の視点を取り入れたことにより、新たな協力団体が増え、横のつながりが広がった。また、公民館事業や防災訓練などに参加しにくい人も、子どもと一緒にできるということから、参加が増え、防災について共に学ぶことが出来た。その結果、防災について家族で話したことの無い保護者や住民が興味を持ち、家族で話すきっかけにもなったようである。
- ・子どもたちにとっては、寝床作りやモクモク体験、防災運動会や炊き出しなどの体験で、友達や地域の人と協力することで絆が深まった。
- ・子どもの成長が保護者の喜びとなり、地域住民への感謝が芽生えたことにより、地域力の大切さに気付き保護者と地域をつなげるきっかけになった。
- ・スタッフからは「通学時のあいさつぐらいなのでふれ合えてよかった」「子どもと地域の方々とのつながりが深く感じられてよかった」という意見があった。

[子どもたちのアンケートより]

- ・防災について学べたし、友達とダンボールで作った部屋で寝るのが楽しかった。
- ・今までやったことのないいろいろな体験ができてよかった。
- ・普段できなかったことや、できないことが通学合宿でできた。
- ・みんなと協力したり、友達と仲良くできた。
- ・たくさんのことを学べたし、友達との友情ももっと強くなったと思う。
- ・友達と協力し合えたし、地域の人とも話せた。
- ・料理が楽しく将来役に立つと思った。
- ・夜が楽しかった。
- ・非常食などで暮らすのは難しく感じた。
- ・夜、ダンボールで寝ることがびっくりした。大震災などの時にこんなことをしなあかんってということが分かった。
- ・けむりがとても危険で前がせんぜん見えないことが分かった。
- ・いざという時に役に立ちそうな知識が身につけてよかった。
- ・地震や火事は怖いんだなと思った。
- ・本当に震災にあった人の気持ちがわかった。
- ・今回のことが本当の災害に役立つと思う。
- ・地震などが来た時は、公民館などで大変なことをしないとイケないんだと思いました。
- ・非常食はとても大切なものと思った。災害の時の判断力も大事と思った。
- ・クロスロードゲームが楽しかった。非常食はすごいなあとと思った。
- ・火も使えないから災害の時は大変だなと思った。



(2) 事業運営上の課題

- ・今回は初めて防災の視点を取り入れたこともあり、災害要援護者のことを考えることができなかった。避難場所に避難してくるのは健康な子どもだけではなく、お年寄りや乳幼児、身体の不自由な方等の様々な人がいるので、こういった人のことも考えられるように次回から取り入れていきたい。
- ・スタッフは各種団体の役員や地域ボランティアで成り立っている。地域の子どもは地域で見守るという視点から、たくさんの役員に協力をしてもらっているが、役員は仕事をしているため、負担が大きく、不満が出る。そのため、通学合宿が子どもだけでなく、大人や地域にとってどのような効果があるのかをもっと理解してもらう必要がある。
- ・通学合宿に参加した子どもたちのみならず、参加できなかった子どもも、今後、公民館や地域の活動に参加できるように、地域で見守り続けて行くことが大切である。
- ・中学生ボランティアや高校生ボランティアを募り、参画してもらうことで子どもの視点から柔軟なアイデアが出るのではないかな。
- ・学んだことを身につけるため、他の人(家族や友人など)に話し、学んだことを活かす場を設ける必要がある。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

- ・防災体験については、住民の参加があることで、より緊張感を持って実施することができるのではないかと考える。その為、住民への周知を徹底し、協力してもらえよう働きかける必要がある。
- ・避難時には、健常者だけでなく、お年寄りや乳幼児など災害要援護者もいることが想定されることから、そういった方々の協力も必要である。

4. 団体プロフィール

日野町教育委員会

【TEL】0748-52-6566

【FAX】0748-52-4665

日野町立南比都佐公民館

【TEL】0748-52-1220

【FAX】0748-52-1212

【開館時間】午前8時30分～午後5時15分

【休館日】月曜日・祝日・第3日曜日

なんびよん



作者：南比都佐地区在住
MANAMIさん
(作成当時、中学3年生)

プロフィール

- ★うさぎの男の子
- ★近江商人見習い
- ★好きなものは竹の子
- ★ドジで不器用
- ★怖がり
- ★羽織の「誉」はお気に入り
- ★兄妹がいる・・・らしい？
- ★鈴はお洒落でつけていると言いつ張っているが、多分熊よけ